

1 1 就農体験談

雇用就農編



千葉市の農園に就職しました！

千葉市 小松田 裕史さん

小松田さんは非農家出身ですが、幼いころの家庭菜園やテレビ番組の影響を受け農業に興味を持ち、千葉県立農業大学校に入学。卒業時に初めから独立就農するかどうかを悩んだ結果、まずは安定した収入を得ながら経験・スキルを身に付け、人脈も得られる雇用就農に魅力を感じ、農園に就職しました。

令和4年9月から勤めている東秀農育株式会社の農園「ふあいんファーム」では令和6年度から農園長を任され、栽培品種の拡大やこどもたちへの食育をはじめとした農業のことを知ってもらう場所づくりなどに奔走しています。

●会社に入って感じた事

現在勤める農園の社長は農家出身で、これまでの経験から農業の大変さ、特に開園当初の課題にも深い理解を示してくれます。具体的な課題としては、作物の栽培技術を習得し確立するまで長い時間を要することや、販売先を見つけることの難しさなどです。社長は失敗に寛大で、それを糧に次の挑戦に生かしていくことや、やってみないと相談したことにとんどん挑戦させてくれる環境がここにはあります。収入を得ながら挑戦や経験ができ、いろいろな方と繋がりも作れるのは雇用就農の良さであり、非農家出身の私にはとても恵まれた環境だと思っています。猛暑の中での作業は大変なことが多いですが、ネギ嫌いの子がうちのリーキは食べられたと嬉しい言葉をいただくこともあり、誰かに影響を与えられる農業の面白さも感じながら日々働いています。

●担当している仕事

いちご、ブルーベリーの栽培管理、農園長としてスタッフのシフト調整・採用などの人事関係、POP・チラシ作り、イベントの企画やこどもたちに親しんでもらえるよう「さつまいもの妖精 おいもマン」に扮するなど、幅広い業務を担当しています。



●今感じている課題、目標

課題は、今の収入源はいちご狩りだけなので、今年から始めるブルーベリー狩りをはじめ観光農園としての収入源を増やしていくことです。1年を通して野菜などの農産物の販売もしていきたいと考えています。

また、いろいろな人に遊びを通して農業に興味をもってもらえるような観光農園のテーマパークをつくりたい！野菜嫌いのこどもを千葉県から無くしていきたい！という思いがあるので、それに向けてできることから頑張っていきます。

●雇用就農を目指す方へ

実際働いてみると、つらい、汚い、きついことを実感しますが、その分大きなやりがいもあります。まずは独立志望の方もそうでない方も、農業をしたいと考えている方はローリスクで経験が積めて、人脈づくりもできる雇用就農から始めてみるのがおすすめです。



独立・自営就農編

サーフィンがきっかけとなり一宮町で就農しました!!

一宮町 間地 真さん



間地さんは、他県での水稲の栽培・収穫体験をきっかけに農業に興味を持ち、平成 24 年に都内で開催された新・農業人フェアの就農相談会に参加。翌年、学生時代を過ごし、趣味のサーフィンでも通っていた一宮町に移住しました。同時に家庭菜園を始め、翌年、農地と中古住宅を購入しました。平成 27 年には、長生農業事務所と J A 長生の指導を受けながら長ネギの栽培を開始しました。

間地さんは、長ネギに好適な水はけのよい砂地の農地で土づくりにこだわり、通年、市場や直売所に出荷を続けて信頼を築き、今後は法人化を目指し、パート従業員（冬季 3 人、夏季 2 人）と共に挑戦を続けています。

●就農時に苦労したこと

移住当初は貸農園で野菜作りに取り組み始めたのですが、基礎知識がない中で失敗の連続でした。農地購入後には 20 a の畑で農薬不使用で有機肥料のみを使用した多品目栽培で、直売所への出荷に取り組んだものの、生活費を賄うには厳しいものがありました。

高い壁を感じる中でも、地区自治会の行事に積極的に参加して顔を覚えてもらい、顔見知りとなった面倒見の良い農家に相談するなど今後の方向性を探る中で、地域に適した生産物への取組の重要性を知りました。そこで、農業事務所に相談したところ長ネギ栽培を勧められたことで、栽培戦略の切り替えを決意し、J A 長生の指導も後押しとなり安定した営農を実現できるようになったのです。

地元関係者との連携が本当に重要だと思い知り、ここまで導いていただいた皆様には本当に感謝しています。

●現在の経営について

現在、長ネギ専作で 1.2ha を栽培しています。残り 1.8ha は緑肥栽培等に取り組み、ローテーションにより連作障害の回避に努めています。

一部で減農薬・減化学肥料の「ちばエコ農産物」にも取り組んでいますが、全出荷量の 8 割程度を J A 出荷、残りを地元直売所や飲食店に出荷しています。

周年出荷を守るため、トラクターなどの機械整備を自ら行い、品種構成を吟味し、本人と雇用の 3～4 人で効率のよい作業を行っています。

●今後の展望について

今は個人事業主ですが、将来的には法人化することを考えています。

地元では生産者の減少が問題となっており、少しでも日本の食卓を支えられたらとの思いがあります。長ネギは国産が重宝され、市場価格も比較的安定していますので、今後も研鑽を重ね、地元の仲間とともに産地を守っていきたいと考えています。

●新規就農を目指す方へ

農業を目指そうとするとき、参入したい地域、手掛けたい作目、こだわりたい栽培方法など、高い理想を掲げて模索を始めると思います。まずは、郷に入らば郷に従えが重要です。自分の理想を押し通そうとしても、自分が知られていない中では孤立してしまうだけです。まずは積極的に地元へ飛び込み、話が合い、面倒見の良さそうな農家を見つけましょう。祭りや共同作業への参加は必須です。地元で信頼を得るまでは、ある程度の時間がかかるものです。

また、就農当初は農業機械や設備などに資金が必要で、生活費を賄うまで数年かかるかもしれません。十分な資金を準備することも成功の秘訣の一つです。お忘れなく。



地域をリードするイチゴ摘み取り園を目指して



船橋市 伊豆丸 智也さん

伊豆丸さんは、牛井チェーン店のエリアマネージャーやマンション建設の現場監督などの経験を積む中、平成26年の結婚を機に船橋市への移住を決めました。いつかは自分で会社を立ち上げたいという強い思いを持ち、経験のある飲食業や建設業での起業を検討したものの、開業に必要な免許や巨額の資金がネックとなりあきらめました。

そのような中、平成29年に農家の減少や耕作放棄地が増えている農業の現状や、船橋市周辺では直売の農産物のニーズが高く、ビジネスチャンスにも恵まれていると思い、就農を決めました。加えて、前職での建設関係の経験が農業生産設備の設置・修繕に、牛井チェーン店での接客能力が農産物販売に役立つといった考えも就農を後押ししました。

●就農時に苦労したこと

農業を志したものの、専門知識も技術もないことから、まずは情報の収集を開始しました。そこで千葉県立農業大学校で実践的な研修ができることを知り、1年半かけて基本的な知識や栽培技術の修得やいちご農園での農家研修を受講しました。研修の傍ら農地を探し始めたものの、面識のないよそ者に農地を貸し、ハウス等の施設を設置させてくれる地主は見つかりませんでした。そのため、いったん独立就農を諦め、農家研修でお世話になったイチゴ農園に雇用就農することにしました。

この師匠であるイチゴ農園での経験が、後のイチゴ農園独立就農へとつながりました。師匠から廃業するトマト農家の情報が入り、空きハウスの賃借が実現することになったのです。農地を確保するため、県の農業事務所の支援のもと青年等就農計画を作成し、市から認定新規就農者の認定を受けることができました。県から経営収支、販売単価、投資経費等の基礎情報を得られたことが、経営する「アンデルセンいちご園」の開園を実現する上で功を奏したと思っています。

●現在の経営について

現在、イチゴ摘み取りハウス3棟(15a)を1月中旬から5月の連休にかけて開園しているほか、育苗ハウス7aを持っています。来園者に飽きさせないため、味などの特性が際立つ4品種を導入しているほか、新京成電鉄(株)とのコラボによるイチゴジャムを商品化して新京成電鉄沿線のセブンイレブンで販売するなどの営業努力を続けています。

●今後の展望について

今後は更に面積を拡大して法人化を図り、船橋市最大のイチゴ屋を目指したいと考えています。自分で会社を持ちたい、という夢から始まった就農ですが、地域に入ってみたら思った以上に若手農家が多く相談相手や情報交換ができることがわかりました。始めはよそ者扱いでしたが、JAいちかわ青年部や消防団にも所属して人のつながりができはじめ、自然と農地を借りてほしいとの声が届くようになり、さらに前進できるとの思いが強くなっています。これからは船橋市農業委員会の農地利用最適化推進委員としても地域農業の発展にも寄与したいと思っています。

●新規就農を目指す方へ

就農当初は農業収入が得られるまで時間がかかる上に収入自体が多くありませんので、それなりの覚悟が必要です。また、就農する上で住居と農地は近い方が良いです。とにかく日々のこまめな観察や管理が成功への近道です。





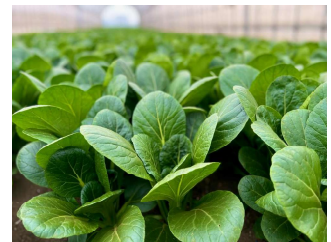
日本全国に農業村をつくっていききたい！

千葉市 山下 大輝さん

山下さんは元々独立志望で、自分には泥臭い仕事が向いていると考えていたことや、ビジネス経験のあった環境分野に関わる会社をつくろうと考えた結果、農業に注目し、その道に進むことを決めました。そして千葉県立農業大学校に入学。卒業後に現在の農地を紹介してくれた千葉市で小松菜等の有機野菜などを生産・販売する「株式会社M○WG(モーグ)」を立ち上げ、農業を通して環境問題や日本の過疎化などの問題に取り組むこと、将来的には全国に農業により自立した村を作ることを目標に、日々農業に向き合っています。

●就農時に苦労したこと

1. 栽培技術の習得：有機葉物を作ろうと思ったときに経験はなく、周りにも栽培している人がいなかったため、インターネット等で情報収集をして独学で学ぶ必要があり、最初は失敗続きでした。
2. 販売先の獲得：自分で見つけていくしかなかったため、販売先を探すのに苦労しました。契約に繋がらなかった場合には、どうしてダメだったのか原因をきちんと把握し、次に繋がられるようにスタッフにも伝えていきます。
3. 農業資材の調達：なるべくコストを抑えようと思うと、自分で一つ一つ選定して探す必要があり、また、遠くの方まで買いに行かなければいけないことも大変でした。
4. 人手確保：求人を出すと応募はあるものの、実際働いてみるとなんとなく農業をやってみたいと応募した人たちは現実とのギャップに辞めていく人もいました。最近では面接時に現場の実情を伝え、また仕事を体験してもらった上で採用するようにしたことで、離職率は低くなりました。



●現在の経営について

法人化して3年目ですが、ようやく軌道に乗ってきて、これからどんどん規模を拡大していく段階に入ってきたかなと思っています。経営規模の拡大に際し、千葉市で農地を紹介してもらいハウスの増設もしています。一方で、拡大に際し、いい人材をどのように確保していくのか、どのように農業未経験の人を育てていくのかというのが現在の経営課題です。

●今後の展望について

私たちの最終ミッションは、若い世代に農業の魅力を伝え、彼らが成長し新しい農業を開拓して全国に広げていくことです。全国各地で過疎化や農村の荒廃が進んでいるという現状の中で、しっかり農業の担い手を育て地方に送り出し、農業できちんと収益が出るようにしていく農業村を作っていききたい。そして農業だけでなく、自然エネルギーや古民家再生、高齢者の生活支援など、その場所にある課題に対しても向き合い取り組んでいきたいと考えています。そのためには、農業とビジネスをしっかり教育して農家でもきちんとお金を稼げる人材を育成することが大事だと思っています。

●新規就農を目指す方へ

農業は農家さんの数だけ答えがあると思うのでどんなスタイルかは自分にあった物を選べば良いと思いますが、自分が農業で何をを目指すのか、目標を明確にしてから始めることが重要だと思っています。「農業って楽しい」や「楽だ」という感覚だけで始めるのは絶対にやめた方がよく、具体的な目標を持ち、その実現方法をじっくり考えることが大事だと思います。



1 2 新規就農に係る相談窓口

就農希望地域が未定・就農全般について相談したい・雇用就農を検討している

① 【総合相談窓口】

千葉県農業者総合支援センター ☎ 0800-800-1944 (フリーアクセス)
千葉市中央区本千葉町 9-10 千葉県 JA 情報センタービル 1F
ホームページ: <https://support.chiba-agri.com/farmer/about/>
問合せ: お電話又はホームページ内のお問合せフォームよりご相談ください



② 千葉県農林水産部担い手支援課 就農支援班 ☎ 043-223-2904

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁本庁舎 17 階
ホームページ: <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/soudan/shuunou.html>
問合せ: お電話でご相談ください



③ 公益社団法人千葉県園芸協会 ☎ 043-223-3008

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁南庁舎 9 階
ホームページ: <https://www.chiba-engei.or.jp/>
問合せ: お電話又はメール (sanchisc@chiba-engei.or.jp) でご相談ください



④ 一般社団法人千葉県農業会議 ☎ 043-223-4480

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁南庁舎 9 階
ホームページ: <https://chinokai.com/>
問合せ: ホームページ内のお問合せフォームよりご相談ください



就農希望地域が決まっている・就農計画の相談をしたい・親元就農を検討している

- | | |
|----------------------------|--|
| ① 千葉 農業事務所 ☎ 043-300-1985 | 千葉市緑区大金沢町 473-2
(千葉市・習志野市・市原市・八千代市) |
| ② 東葛飾 農業事務所 ☎ 04-7143-4121 | 柏市高田 990-1
(市川市・船橋市・松戸市・野田市・柏市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市・浦安市) |
| ③ 印旛 農業事務所 ☎ 043-483-1129 | 佐倉市鍋木仲田町 8-1
(成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市・酒々井町・栄町) |
| ④ 香取 農業事務所 ☎ 0478-52-9192 | 香取市佐原イ 92-11
(香取市・神崎町・多古町・東庄町) |
| ⑤ 海 匝 農業事務所 ☎ 0479-62-0156 | 旭市ニ 1997-1
(銚子市・旭市・匝瑳市) |
| ⑥ 山 武 農業事務所 ☎ 0475-54-1122 | 東金市東新宿 1-11
(東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・芝山町・横芝光町) |
| ⑦ 長 生 農業事務所 ☎ 0475-22-1751 | 茂原市茂原 1102-1
(茂原市・一宮町・睦沢町・長生村・白子町・長柄町・長南町) |
| ⑧ 夷 隅 農業事務所 ☎ 0470-82-4956 | 夷隅郡大多喜町猿稻 14 (令和6年8月まで)
夷隅郡大多喜町猿稻 472-2 (令和6年9月から) |
| ⑨ 安 房 農業事務所 ☎ 0470-22-7131 | 館山市北条 402-1
(館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町) |
| ⑩ 君 津 農業事務所 ☎ 0438-25-0107 | 木更津市貝淵 3-13-34
(木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市) |



ちばの大地で農業を始めたい人の手引書—令和6年度版—

発行 令和6年8月

編集 千葉県

農業経営・就農支援センター（千葉県）

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1

電話 043-223-2904

本冊子は、「農業経営・就農支援体制整備推進事業」を活用して作成しました。